

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 郡上高等学校 学校運営協議会 (第Ⅱ回)
- 2 開催日時 令和6年10月28日(金) 13:30~15:30
- 3 開催場所 郡上高等学校会議室
開催にあたり、委員による授業参観を実施した
- 4 参加者

会 長	日置 保次	郡上市立八幡中学校校長
副会長	畑中 敦	一般財団法人郡上八幡産業振興公社営業企画部長
委 員	木村 達男	木村総合法律事務所弁護士
	和田 望美	郡上高等学校PTA役員
	田代 はつ江	地域住民
	宇佐見 美智子	地域住民
学 校 側	浅見 和人	校長
	勝村 英司	事務部長
	古田 寿朗	教頭
	八束 功子	教頭
	安藤 一太	教務部長
	森下 大介	進路指導部長
	山本 力也	生徒指導部長
	森 秀樹	農場長 (欠席)
	市原 賢優	普通科主任
- 5 会議の概要(協議事項)
 - (1) 学校評価アンケートの結果報告
 - ・教頭より説明
 - ・分掌長より説明

意見1 生徒指導事案が疑われた時の事情聴取のあり方について、当該生徒以外の生徒に対する配慮が足りなかった事案があったのではないかと。

回答 生徒指導事案に対して学校は迅速に対応する。その結果、関係ない生徒に影響

を与えることもある。今後は、すべての生徒に配慮しながら対応したい。

意見2 小中学生のいじめは、からかいがいじめになるような幼稚さがあると思うが、高校生のいじめはどうか。また、いじめは親や先生が介入する。高校生はその経験を通して成長すると思う。そういった際の生徒の反応はどうか。

回答 小中学生のいじめと高校生のいじめは大きな違いはない。「ごめんなさい」を言えば収まることが多いが、それが言えない生徒が多い。つまり、ネゴシエイトする能力を自分たちで養うことができない

意見3 「いじめや差別を許さず、厳格に対応している」の項目の否定的評価3%を過小評価しない方がよい。

(2) スクールミッション (案) の説明

- ・教頭より策定要領と、原案作成の流れについて説明
- ・校長より、原案とその趣旨を説明

意見1 2行目の表現が、「今を生きる」そして「未来を生きる」をイメージさせてとても良い。

意見2 「指導者・専門家の育成」は 普通科と農業科の生徒をイメージしているのだと思われるが、育てるのは、その両者とは限らないので広く「人材の育成」または「リーダーの育成」とした方がよいのではないか。

意見3 専門的は農業科のこと、探究的は普通科の事だと想像するが、だれが見ても郡上高校の特色が判るように表現した方がよいのではないか。普通科と農業科が互いに影響しながら頑張っていることがわかるような表現がよいと思う。

6 会議のまとめ

- ・学校アンケートの分析に関わる意見交換で、慎重ないじめ対応の重要性について確認できた。
- ・スクールミッションについて貴重な意見を得られた。意見を参考に校内で内容を検討する視点ができた。